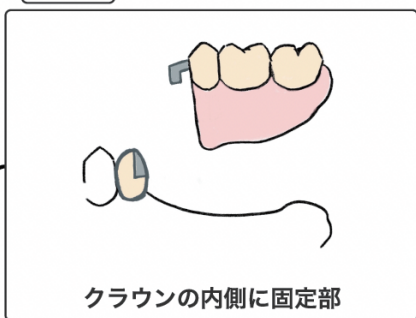


歯冠内アタッチメント



クラウンの内側に固定部

良いところ(悪いところでもある...)

精密性(非緩圧性)タイプが多い

ガチガチに固定される

よく噛める(緩圧型と比べて)

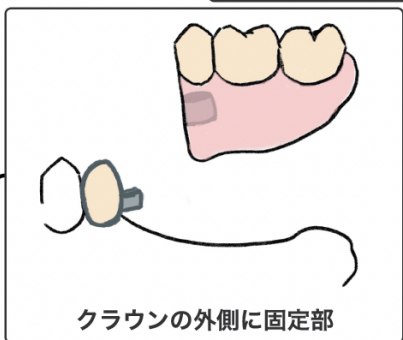
支台歯への圧が大きい

悪いところ

歯冠長が必要(最低5mm)

歯の削除量が多いので生活歯には適応困難

歯冠外アタッチメント



クラウンの外側に固定部

良いところ

レストと比べると荷重点が低い

支台歯を傾斜させる力が低い

歯の削除量はクラウンと同じくらい

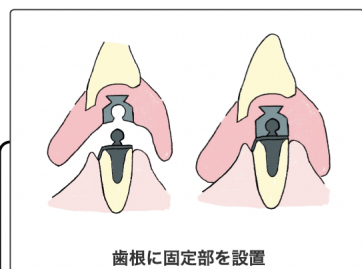
固定部が歯冠外だから

悪いところ

歯冠長が必要(最低5mm)

固定部が外側、つまり不衛生

歯根内(スタッド)アタッチメント



歯根に固定部を設置

良いところ

力が加わる点が高い

歯冠の中央に力が加わる

歯冠/歯根比が改善される

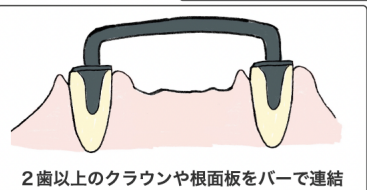
人工歯を並べやすい

悪いところ

支台歯周囲が不潔になりやすい

アタッチメントを覆うレジンが薄くなる

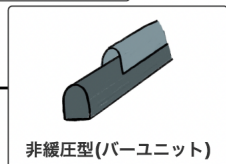
歯根外(バー)アタッチメント



2歯以上のクラウンや根面板をバーで連結



緩圧型(バージョイント)



非緩圧型(バーユニット)

良いところ

バーによる義歯の固定力が高い

荷重に対する支持力が高い

悪いところ

バーの下の粘膜が異常増殖しやすい

バーが粘膜でふさがれる

バーは粘膜と密着させて設計するのが良いと言われている